

科目名称	人間関係論	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	30
担当教員	富田 英司	授業に関わる 実務経験	☐ 有 ☒ 無	

【1】授業概要

看護におけるコミュニケーションの基盤となる人間関係について、愛着、男女差、

【2】学習目標

1. コミュニケーションのとり方の個人差のあり方やその発達の背景について理解する。
2. コミュニケーションにおける誤解や衝突が生じるプロセスについて複数の捉え方ができる。
3. 医療現場を始めとした支援現場におけるコミュニケーションの成立過程について理解する。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☐ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- ☐ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- ☐ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☐ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	愛着と発達: 人と人との付き合い方のタイプが生まれた当初の主要な養育者の関わり方によって大きくは決まることを学ぶ。	講義
2	成人期の愛着と世代間連鎖: 子どもの頃に形成された愛着システムがどのように大人になって機能するか、世代間に渡ってどのように影響するか理解する。	講義
3	コミュニケーションの男女差①: 他者理解や情動反応における違いについて進化心理学の観点から理解する。	講義
4	コミュニケーションの男女差②: 交渉プロセスや組織行動における違いについて進化心理学の観点から理解する。	講義
5	攻撃のコミュニケーション: 主に身近な人間同士の攻撃的コミュニケーションの過程について、動物行動学も参照しながら理解する。	講義
6	偏見の仕組み: 人が生き残るための効率的な認知機能と偏見は切っても切り離せないことを理解する。	講義
7	前半の授業内容の振り返りとまとめ	講義
8	差別を防ぐ: 偏見の仕組みを理解した上で、偏見が差別につながるための方法について実践的に学ぶ。	講義
9	ニューロダイバーシティ: 物事の見え方やコミュニケーションの方法において、一般的に障害を持つと捉えられる人々の多様なあり方について学ぶ。	講義
10	セルフアドボカシー: 自分自身のことを理解し、他者に必要な援助を状況において効果的に引き出すことの重要性とその教育的アプローチについて知る。	講義
11	コミュニケーションの文化差: 特に医療現場を題材に、同じ事柄が文化によっていろいろな捉えられ方をすることを理解する。	講義
12	支援の難しさ: 人を助けることは、被援助者の主体性を軽んじることと表裏一体であることを学び、支援ということが根源的に成り立つ条件を探る。	講義
13	看護コミュニケーション能力の発達: 看護師が初期の業務経年を通してどのように典型的に発達するのかを理解する。	講義
14	後半の授業内容の振り返りとまとめ	講義
15	最終試験	

【5】評価方法

授業中に実施するミニレポート等(40%)と最終試験(60%)を総合して評価する。

【6】教科書

教科書の指定なし

【7】 参考書

参考書はしていません

【8】 受講生へのメッセージ

授業の各テーマに関係する経験談を積極的に授業で共有することを通して、専門的な理解を身近に感じてほしいと思います。